



ジュバ市内Jebel Marketにて。



ジュバ市内のスーパー。



衛生啓発活動で学んだことを絵で発表する生徒たち。



リボンをかけられセレモニーを待つトイレ。



The Republic of South Sudan

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

初めてのジュバ・紛争後の現場で働くということ

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみ! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク9月号の販売部数
6,878部×3円=20,634円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

| ご利用明細票 | |
|--------|-------------------|
| 発行振込日 | 2014年09月15日 |
| 発行振込先 | 株式会社メディコム |
| 振込金額 | 20,634円 |
| 振込元 | タウトク編集部 |
| 振込理由 | 南スーダン国内避難民・難民支援事業 |
| 振込手数料 | 0円 |
| 合計 | 20,634円 |

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ
タウトク
medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

皆さん、こんにちは。先月に続き、アフリカ事業担当の竹中より出張報告をお届けします。今回は、南スーダン国内で治安悪化の懸念があったため、直前で行けなくなったことをお伝えしましたが、今回は無事にジュバに入ることができました。

涼しく快適なナイロビから飛行機で約1時間、南スーダンの首都・ジュバの空港は、援助関係者と思われる人たちでごった返していました。ナイロビからさほど遠くないのに、なんでこんなに、と思うほど気候は変わり、気温は35度を超え、射るような強い日差しが痛いほどです。街中は、思ったよりも都会でした。ホテルやレストラン、様々なお店が立ち並び、更にあちこちに建設中の大きな建物を見かけます。道路にはランドクルーザー等の大型の日本車が砂埃を上げて行き交っています。市場やスーパーには、近隣各国から輸入された食品や生活用品が並び、建築資材を扱う店はとりわけ賑わいをみせているようです。ジュバはかつてジュネーブを超えて世界一物価が高いといわれたこともあるように、商品の価格は軒並み日本と同じかそれ以上であるような印象を受けました。たとえば、豆の缶詰が20SSP(南スーダンポンド)で約300円、プリングルスが38SSPで約400円などです。ほぼすべてのものを輸入に頼っているこの国では、物価が高いことに加え、品薄になることもしばしばあるそうです。ガソリンスタンドには給油のため1kmほどにも及ぶ車列ができていました。一度に給油される量に

は制限があるため、何度か列に並びなおさないと満タンにはできません。

10月6日、PWJが支援する学校でトイレの完成を祝う記念式典が開かれました。在南スーダン日本国大使やPKOで派遣されている自衛隊も参加され、盛大にセレモニーが行われました。子どもたちの歌や踊り、衛生啓発に関する寸劇などかわいい出し物に続いて、自衛隊の皆さんも迫力満点の和太鼓を披露してくださいました。参加された紀谷大使は、「この学校にトイレができたことは本当に喜ばしいことです。でもあと二つ、喜ばしいことがあります。それは、みなさん自身が衛生普及活動に取り組み理解を深めて実践されているということ、もうひとつは、日本のPWJと南スーダンのNGOがともにこの活動を進めているということです。」と、PWJと現地の人たちとの協働を高くご評価くださいました。

駐在ができないことで、現地パートナーとの連絡はメールや電話になりますが、支援とは、どちらかがどちらかに一方的に提供するものではなく、手を取り合って知恵を出し合って一緒につくっていくもの、というスタンスで支援を継続しています。8月の和平合意後も戦闘が続いており、駐在までの道のりは長くなりそうですが、現地の人たちにとって最も必要な活動を形成する基盤になるように支援を継続していきたいと、改めて感じた出張になりました。

アフリカ事業担当 竹中奈津子



現地メディアの取材を受ける現地代表清水(左)と紀谷大使(中央)。

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。